

令和6年度 仙台市社会事業協会 事業報告 総括

令和6年度は、法人会長をはじめ高齢者部門・児童部門・教育部門からなる内部理事等、役員体制が大幅に入れ替わる形で事業運営が行われた。超少子高齢化に伴う人材確保の問題や、気候変動による激甚災害の増加、物価の高騰等、法人の経営を取り巻く状況は非常に厳しい中、部門の垣根を越えて連携を深め、経営の安定化と人材確保・育成に向けて動き出す等、大きな転換期となる1年であった。

(1) 事業運営の安定化

- ・ 仙台長生園での見守り機器「眠りスキャン・眠りスキャンアイ」、4保育園での登降園管理や保護者への連絡に関する「おがーるシステム」、理容美容専門学校での学生管理システムのデジタル化等、高齢者、児童、教育の各部門でICT化が進み、業務省力や職員の負担軽減等、今後の成果が期待される。
- ・ 法人全施設の建物調査結果に基づき、令和5年より開始した大規模修繕計画の2年目にあたり、仙台長生園バルコニー等防水工事及びエレベーター更新、仙台理容美容専門学校の外壁等改修及びエレベーター更新、仙台楽生園ユニット館給湯管更新・人工地盤エクスパンションジョイント修繕等実施した。
- ・ 辻・本郷税理士法人による定期監査の結果を踏まえ、施設ごとの経営課題と改善策について検討。部門の垣根を越えて課題を共有し、相互に情報交換、連携して取組む基盤づくりに努めた。

(2) 人材確保・育成

- ・ 高齢者部門において、令和6年12月より初めて特定技能実習生4名の介護職員の受入れを実施。他法人と連携・協力の下育成・指導を継続中。
- ・ 次代を担う人材育成を目指し、管理職及び管理者、主任クラスを対象として、年間計画に基づき法人全体の研修会を実施した。

(3) 仙台つばさ荘及び柏木保育園建て替え

- ・ 補助金申請が通らず、令和6年度中の実施を見合わせたものの、仙台市の各担当課への相談、協議を継続し令和7年度の申請、内示を受けることができた。具体的な建築計画及び今後のスケジュール等について協議中。

(4) 教育事業

- ・ 校則変更やAO入試の導入、ガイダンス及びオープンキャンパスの回数増、SNSでの情報発信等に継続して取り組み、令和7年度の入学生大幅増に繋げることができた他、修得者課程3年制度を導入し、令和9年度からの実績が見込まれている。

(5) 地域貢献活動の充実

- ・ 各部門において、社会福祉法人に求められる地域公益的活動のあり方について検討し、施設の貸し出しや専門職の派遣、町内会活動等、施設ごとにできることから取り組み始めている。

(課題)

- ・ 児童部門、高齢者部門共に、新卒採用・中途採用を問わず、直接雇用の職員確保に苦慮しており、派遣職員等で凌いでいる。一定の経験を積んだ中堅層が、家庭の事情や業務負担等を理由に退職するケースもあり、働き方改革と職場の環境改善が急務となっている。
- ・ 障害者雇用率が段階的に引き上げられる中、施設の種別によって職員の理解、受入れ体制に格差が生じている。法人全体で推進していくための啓発活動に加え、具体的な数値目標を設定して取り組む必要がある。
- ・ 物価高騰の中、建替え工事に係る建築費用や修繕費についても想定を上回る金額を要することが予測される。老朽化が進み、この先建替えや改築が見込まれる施設も複数あり、計画的に本部繰入れ等、資金の確保に努める必要がある。
- ・ 老人福祉センターや地域包括支援センター等、事業の特性から地域との繋がりや公益的な活動のノウハウを持つ施設を中心に、今後も部門間で連携・協働しながら地域公益的活動の推進を図っていく。
- ・ 法人創設から間もなく 100 周年を迎えるにあたり、その先の未来を見据えた事業経営のあり方、事業展開について、人材確保と育成も含め協議・検討する必要がある。

令和6年度 仙台市社会事業協会事業報告

1. 理事会開催状況

開催日	議事等
令和6年5月31日	・令和5年度事業報告承認を求める件について ・令和5年度決算承認を求める件について ・理事の選任について
令和6年9月25日	・正職員の初任給格付基準の変更について ・福祉サービスに関する苦情解決第三者委員の選任について ・仙台長生園介護ロボット・ICT導入事業について ・柏木保育園、仙台つばさ荘の建て替え工事について
令和6年12月26日	・仙台つばさ荘及び仙台むつみ荘から法人本部への繰り入れについて ・令和7年度仙台理容美容専門学校の大規模修繕工事について ・柏木保育園、仙台つばさ荘の建て替え工事について ・第1次補正予算について ・就業規則の変更について ・育児介護休業等に関する規程の変更について ・福祉サービスに関する苦情解決第三者委員の選任について
令和7年3月13日	・仙台つばさ荘建築に係る仙台むつみ荘からの繰り入れ及び福祉医療機構からの借り入れについて ・第2次補正予算について ・令和7年度事業計画（案）及び収支予算について ・施設長人事について ・定年後の嘱託契約による継続について ・正規職員及び嘱託職員の処遇改善手当の支給対象者の変更について ・育児・介護休業等に関する規程の変更について ・勤務地限定職員に関する規程の変更について ・仙台理容美容専門学校の学則の変更について

2. 監事監査

・5月20日 場所 法人本部事務局会議室

3. 評議員会開催状況

開催日	議事等
令和6年6月17日	・令和5年度 決算承認を求める件について ・理事の選任について

4. 会議・委員会活動

会議・委員会名	開催回数	主な内容・取り組み
管理職者会議	12回	・委員会・会議の報告・各種議題の議論
部門代表者会議	11回	・つばさ荘、柏木保育園の建て替え工事について ・外国人労働者の受け入れについて ・仙台長生園介護ロボット・ICT導入事業について
感染症対策委員会	10回	・新型コロナウイルスの対応等
人材確保対策委員会	2回	・新卒者採用試験及び内部登用試験について
教育・研修委員会	3回	・新人職員研修会の実施等
広報委員会	1回	・あゆみの発行
コンプライアンス委員会	1回	・社会福祉法人におけるガバナンス、コンプライアンス ・各分野、事業所におけるコンプライアンスの課題、取り組み状況について
ハラスメント防止委員会	2回	・規程・相談対応の流れ・研修会の確認 ・カスタマーハラスメントについて

5. 地域における公益的な取り組みに関すること

- ・葉山地域包括支援センターでは、葉山シルバータウンの敷地内で男性の地域活動の参加促進を目的とした畑作業グループ「葉山男塾」の支援を行っている。4年度は新たに「はやまこども塾」として、地域の児童館を利用している子ども達との共同作業も行い活動の幅が広がり世代間交流機会を創り上げることができた。
- ・理容室 gg バーバー 美容室美楽る 地域の方々（事前予約した）に低料金でサービスを提供できた。
- ・オレンジカフェの実施。
- ・フレイル予防（介護予防教室）の実施。
- ・仙台むつみ荘の子ども会で、地域の清掃を月1回実施。
- ・仙台むつみ荘及び仙台つばさ荘の退所世帯の相談支援。
- ・4保育園においては、園庭の開放を実施。

6. その他・賞与支給 6月 12月

	成果	課題
サービス	・第 51 回理容師・美容師国家試験の結果、理容科 100%(全国平均 82.3%)、美容科 97.7%(全国平均 88.1%)、通信理容・美容修得者課程 100%となる。特に美容科においては、全国 2 7 2 校中 100 名を超える受験者の中では、トップ 10 に入る数字である。 ・第 16 回理美容甲子園では、入賞 25 名、全国大会 11 名出場と今年も出場校 2 0 校中最多出場となる。全国大会では美容部門カット競技で優秀賞を獲得した。 ・非常に難しいとされている、ネイル 2 級検定試験に 3 名が合格した。(課外授業)	・国家試験について、実技は全員合格しているが、筆記での不合格が 2 名と課題が残る。又、クリエイティブ部門での上位入賞への意識の低下も見られる。今後、総合型選抜実施により人物重視の選考となり、よりパーソナルな部分へのアプローチが必要と考える。 ・全てにおいて(学業面、基本的生活習慣)、意識の高い学生とそうでない学生の差が顕著になってきている。多様性と言われる時代だが、その対応に苦慮するところである。
労務管理	・成績票や学生管理システムなどをデジタル化しているところだが、担任にとっては、その時間を学生との時間や、教材研究に充てることができている。 ・すべての立場の教員が、プレイヤーとして、授業、広報、事務を担っている為、急な休み、遅刻は職員ラインに、広報活動の報告は広報ラインに挙げることで、皆が情報共有できるようになっている。	・デジタル化やシステム化によって、何事も効率的に進めることが善という風潮になりつつあり、人件費を削減するため、日々の業務に追われコミュニケーション不足が懸念される。 ・有給休暇の取得について、今年度、本校職員の平均は約 6 日となっており、昨年より 1.5 日少なかった。もう少し有給を取得できる環境にしていきたい。
経 営	・令和 5 年度(定年退職等 4 名の退職金支出)に比べて、講師の時間数削減もあり、人件費支出が約 11,000,000 円減となった。 ・ガイダンス参加数 139 回、昨年より 23 回増やし、オープンキャンパスの動員数 452 名(延べ人数)と良好で、前年比 1.8 倍の入学生となった。 ・今年度より開始の総合型選抜受験者 106 名は予想を上回るの数字となった。。 ・修得者課程 3 年制度の希望者 30 名も令和 9 年度入学生につながることを期待している。	・1 年生 94 名、2 年生 98 名合計 192 名でスタートし 1 年生 88 名、2 年生 97 名合計 185 名で今年度終え、取崩金は約 64,000,000 円となる見込みで非常に厳しい状態となっている。 ・次年度も大規模修繕が控えており、入学生は 171 名スタートとなるが 2 年生 88 名のため、259 名スタートなり、定員 320 名に対して充足率 80%となる。ここ数年の取り崩しを取り戻し、収支のプラスを続けるには、2 学年合わせて 280 名の学生の確保、経費の見直し、優先順位を付けて無駄を削減することが課題である。